（3）地域実践型教育活動（エクステンション＆アウトリーチ）

No.	区分	代表者	事業名	事業概要	採択額（千円）
1	地域学部	鈴木　慎一朗	自然環境を題材とした「こどものうたコンサート」の企画と実践	日本には四季があるにもかかわらず、生活環境の近代化に伴い、自然を感じにくくなってきている。また、オーディオ機器の普及に伴い、生の音楽に触れる機会が減っている。幼児期の体験は、豊かな感性を育成する上でも重要である。本事業の目的は、幼児を対象とした自然環境を題材とした「こどものうたコンサート」の企画と実践を学生参画により実施し、その有効性を検証することである。	107
2		住川　英明	まちなか文学講座	この講座は，地域住民にとっての歴史と文化のシンボルといってよい建物を会場とし，その建物を管理・運営する民間会社と連携して行う事業である。日本の古典文学や近代文学における優れた作家と作品を取り上げ，講師による読解と鑑賞の手引きによって文学のすばらしさや細やかな心情の把握の仕方を味わい，地域の人々が協働的な活動の中で自らの生き方を考える契機を提供しようとするものである。	180
3		山根　俊喜	出張！地域をつなぐ吹奏楽の旅	鳥取大学吹奏楽団ウインドアンサンブルは，吹奏楽を通じて学生同士が親睦を深め、大学生活を豊かにするために活動している鳥取大学公認サークルである。地域の方々と音楽を通じて交流することも目的のひとつに活動しており、これまでに学童保育団体や鳥取砂丘コナン空港の依頼を受けて，出前演奏会を実施した。CDLでのランチコンサートも始めた。このような活動は地域の方々と音楽の楽しさ，面白さを共有するとともに，団員にもよい刺激となっている。今回、地域との交流活動を拡大したいと考え，鳥取大学が連携協定を締結している琴浦町，大山町，智頭町，南部町，日南町，八頭町の各職員の方々に提案したところ，快諾を得たことから，これら自治体と協働して現地での演奏会を実施することとした。鳥取砂丘コナン空港での演奏会やCDLでのランチコンサートも合わせて実施する。本取り組みは，吹奏楽を通じて，地域と大学生が繋がる機会を作ることを目指す。	50
4	医学部	浦上　克哉	認知症予防の啓発事業 －とっとり方式認知症予防プログラムの普及を目指して-	2019年1月現在の鳥取県の老年人口は過去最高の32.7%と算出されており、高齢者の増加に伴い、認知症患者も増加していると推計されている。しかし、これまでの我々の成果も含め国内外からの研究より、認知症は予防できる可能性が報告されてきている。ただし、これらの成果は住民の方へは十分に行き届いておらず、認知症に対して偏見を持っていたり間違った見解をされている人が多いのも現状である。そこで、公開講座を開催し、認知症についての正しい情報や予防できる可能性を発信するとともに、我々が開発した認知症予防プログラムの一部を実際に体験していただき、認知症やその予防法について学び、健康増進に繋げていただくことを目的として、本事業を立案した。	181
5	工学部	西田　信一郎	鳥取大学天文ドーム一般公開	本事業の目的は、鳥取大学共通教育棟に設置されている天体観測室及び観測機器を利用して天文イベントを実施し、これによって鳥取大学天文研究会の活動を紹介するとともに地域住民に鳥取大学の施設を公開し、天文イベントに興味を持っていただくことである。衛星の打ち上げや日食、月食、流星群といったイベントは日本中のテレビでも紹介され、多くの人が空を見上げて興味を示している。しかし、天体観測するためにはそれ相応の設備や道具が必要になる。現在、鳥取大学の共通教育棟にある天体ドームは、天文研究会が使用しているが、活用を拡大する余地があると考えられる。学外からも視認できる本施設を地域住民向けの施設開放に用いることは大学の認知を深めるうえでも有効であると考える。	164
6		小出　隆夫	小学生を対象とした「鳥大ものづくり教室」の開催	本事業は小学生とその保護者を対象とする親子参加型の実践的なものづくり教室であり，これまでに20回程度の開催実績がある．参加者は工学部ものづくり教育実践センターの工作機械や工具，電工設備などを活用し，日常では体験できない本格的なものづくりを体験することができる．今回はものづくり教育実践センターを拠点としてプロジェクト活動に取り組んでいる学生グループや，過去のものづくり実践教育の受講生が教材開発や子どもたちへの指導に取り組むことで，地域向けの社会貢献と学生向けの工学教育の機会を兼ねることを試みる．	175
7		菅原　一孔 中川　匡夫	電気・情報に関する体験講座の実施（「ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ体験教室 スマホアプリを作ろうの会」，電気情報系学科の研究室公開）	若者の科学（工学）離れが叫ばれている昨今，子供のなりたい職業に関するアンケートでは，「学者・博士」が上位に位置するなど，幼少時の科学に対するあこがれは強い．そのため，幼少期から継続的に科学にふれる機会を提供することで，科学を身近なものとして認識してもらうことを目的とする．このような背景に鑑み，実施者らは主に小中高生を対象にした情報に関係するプログラミング体験講座として平平成22年より「プログラミング体験教室スマホアプリを作ろうの会」を実施してきた（これまでに延べ600名以上の小中高生が参加している）．	200
8	農学部	遠藤　直樹	第８回 鳥取大学菌類きのこ観察講座～野外観察と顕微鏡実習～	本事業は，農学部附属菌類きのこ遺伝資源研究センター（以下，センター）が主催して2012年度から継続して毎年度行っている事業であり，2013年度から森林公園とっとり出合いの森（鳥取市；以下，出合いの森）と共催している．本事業は菌類きのこの分類学に関する最先端の教育・研究を行っているセンター専任教員が一般市民に対して，フィールドワークとラボワークを通じてきのこの探し方や見分け方を分かりやすくレクチャーし，本事業を通じて鳥取大学が取り組むきのこに関する教育・研究の一端について習得・理解して頂くことを目的としている．一方，本事業には本学農学部および農学研究科の学生もアシスタントとして参加することとなっており，一般市民の交流を通じた学生の人間力向上も目的としている．	170
9		山口　武視	第１３回　ＦＳＣあぐりスクール	FSCあぐりスクールは児童とその保護者が一緒になり、作物を育て、自分たちで世話をした農作物を食べることで食について知る機会の提供を目的としています。野菜や米の栽培管理だけでなくモチや蕎麦などの加工にも挑戦します。参加者への指導助言は農学部ＦＳＣの教員及び技術職員が行います。また参加者の皆さんにはそれぞれ可能な範囲で草取りや野菜収穫など日頃の管理をお願いし日々の生育の様子を観察して頂きます。	200

No.	区分	代表者	事業名	事業概要	採択額（千円）
10	農学部	松村　一善	公開講座　農業経営スキルアップ講座-個別課題の解決に向けて－	近年，経営面積規模の拡大を図る経営，生産物の直接販売によりビジネスサイズの拡大を図る経営が増加してきている。しかし，これらの担い手経営は，経営規模を拡大する過程で地域での農地資源管理・合意形成場面での課題や，ビジネスサイズを拡大する過程でのマーケティングの課題に直面している。本講座では，こうした担い手経営が直面する課題解決に資する手法を演習方式で，指導・教育する。	200
11		竹村　圭弘	公開講座・ナシ栽培生理講座	本講座は鳥取県の梨生産者に対し、鳥取大学で開発した技術、品種を普及することにより産地の活性化に寄与しようとするもので、鳥取県、二十世紀梨記念館、JA全農とっとりと共同で開催する。本講座受講希望者は、毎年４０名以上おり、ここ数年間は現在増加しつつあるIターン等による新規就農者や若手地域リーダーを主なターゲットとして実施している。	187
12		能美　誠	公開講座　農業経営管理の基礎を学ぼう	鳥取県が策定した「鳥取県農業活力増進プラン」では、農業の担い手を確保するために新規就農者を2000人増加させることとしている。これらの新規就農者等が定着し，今後の鳥取県農業を担っていくためには，農業経営の体質強化・そのための農業者の経営管理能力の向上，これらに向けた関係機関による指導の強化が課題となっている。本講座では，こうした要請に答える目的で，農業経営管理の基礎を演習方式で指導・教育する。	200
13	乾燥地研究センター	藤巻　晴行	乾燥地研究センター「一般公開」	本事業は、地域住民の方々を対象に、乾燥地の自然や文化および乾燥地が関係する諸問題を紹介し、乾燥地研究の重要性を理解してもらうことを目的としている。また、乾燥地研究センターの研究・活動内容の紹介及び研究施設等の見学を行い、乾燥地研究センターについてより深く一般の方々に理解していただくことを目指している。	200
14	教育支援・国際交流推進機構	御舘　久里恵	国際理解教室「世界を知ろう」	本事業は，本学の外国人教員及び外国人留学生が鳥取県内の学校に出向き，実際の交流や体験を通してそれぞれの文化を伝え，児童・生徒の国際感覚を養うことを目的として実施するものである。派遣教員・留学生から各自の文化等を，プレゼンテーション，読み聞かせ，伝統的な遊び，料理等を通して子どもたちに伝える。子どもたちからも自らの持つ文化的資源や学習成果等を留学生たちに披露する。本事業は平成24年度から継続し，訪問学校の地域・学校種を増やしてきたものであり，各学校からの期待も高まっている。	110
15		森川　修	理科大好き出張実験	本事業の目的は，理科の実験を通して科学の楽しさや面白さを知り，小中学生を理科好きにすることである．そのため，大学教員が小中学校に出張し，小中学校で使用しない実験器具や方法を用いた高度な内容の実験を行う．この事業では，実験を行うだけでなく，理科の授業で習った知識を活用して，なぜその現象になるかについて考えることを通じて，学力の3要素のひとつである「思考力」を養うことができると思われる．さらに，大学教員の解説により，現象に対する理解が深められ，理科（科学）に対する興味が増すことを期待している．	200
16		グラシエラ・クラビオト	ラテンアメリカを知ろう	７年前から始まった本事業では、鳥取の一般市民を対象にラテンアメリカ地域の特徴や歴史、人々の生活や文化について理解を深めるための活動を行ってきた。4年前から高等学校の学生を含むイベントを行い、2年前ラテンアメリカの子育て事情のイベントを行い、去年の死者の日のイベントと防災のイベントも行いどちらも良い結果をもたらしているため、この様な企画を継続する。今年は対象者を広げることを第一の目標とし、鳥取在住の外国人と市民が相互に理解しあい住みやすい社会の形成を目指す。（1）音楽や民族舞踊や食文化交流を含むラテンアメリカ地域に関するプレゼンテーションを行い、スペイン語の語学力向上、及び日本とラテンアメリカの文化について相互に理解を深める。（2）鳥取の高等学校を対象に国際交流ワークショップを実施し、ラテンアメリカの音楽や文化について紹介する。また鳥取大学のメキシコ実践教育プログラムについて紹介し、国際理解を深めると共に海外留学の魅力を大学から地域の高校生へ発信する。（3）ラテンアメリカと日本の事情についてのワークショップを実施し、多文化共生のための意見交換の場とする。	174
17	技術部	三谷　秀明	米子市および日南町と連携した科学実験教室の開講	H19年度より継続のにちなんふる里まつりに連携する出前科学実験教室に加え、H30年度より米子市小学校教育研究会理科部共催事業として科学教室を開催している。にちなんふる里まつりに連携する科学実験教室は日南町庁舎および総合文化センターを中心に、年齢を限定することなく開講し、また、米子市小学校教育研究会理科部共催事業は、米子市内全小学校5，6年生を対象として、児童文化センター，医学部施設を中心に開講している。ともに科学の楽しさを、遊びや物作りを通して体感してもらうことに加え、鳥取大学の素晴らしい魅力をPRする機会としての役目を担っている。いずれの事業も、来る将来、子供たちが鳥取大学で学び、その知識を地元産業の活性化に役立てるきっかけとすることが最大の目的である。	200
18		安藤　敬子	鳥取大学発「出前おもしろ実験室」プロジェクト～理科好きな子どもたちを育てるために～	「出前おもしろ実験室」は，子どもたちに理科・科学への興味・関心を深めてもらうことを目的として行う出張形式の体験型科学実験教室である．技術部では，平成18年に『鳥取大学発「出前おもしろ実験室」プロジェクト』を立ち上げ，これまで県内の小中学生を中心に延べ5000人以上の子ども達に科学のおもしろさ・楽しさを伝えてきた．本事業では従来の活動範囲を拡大し，定着させ，県内広範囲における地域連携の充実を図る．	200
19		山田　有里子	電子工作教室	技術部では、大学祭の期間中に小中学生等に対して技術を活用することの楽しさを体験する機会を提供し、参加した子どもたちに科学や技術に対する興味や感心を高めてもらうことと、技術職員の技術力を学内外に広く知ってもらうことを目的にして工作教室・技術教室を企画・実施してきた。今までに10年近く継続してきたが、数年連続で参加されるご家族もあるなど、比較的人気の高い事業となっている。平成31年度も引き続き、オリジナルな電子工作を開発して技術の楽しさを体験してもらう。今回はLEDと光検出器とマイコンを用いて、この機器を設置した場所の物体通過を検知して知らせる装置の製作を行う。	151